

Babesia gibsoni 感染犬における 住血ヘモプラズマ検出の試み

渡辺 征¹, 久末 正晴¹, 相馬 武久², 並河 和彦³, 根尾 櫻子¹, 土屋 亮¹

¹麻布大学獣医学部内科学第二研究室, ²マルピー・ライフテック株式会社,

³麻布大学獣医学部伝染病学研究室

犬における住血マイコプラズマ症を起こす犬ヘモプラズマには, ‘*Mycoplasma haemocanis*’ (Mhcと略す)と ‘*Candidatus Mycoplasma haematoparvum*’ (CMhp) の2種の存在が2004年に報告された(Kemming)。犬のMhc感染により貧血が起こると云われるが, 貧血は軽度から重度まで様々であり再生性貧血とされている。Mhcは猫のヘモプラズマの *Mycoplasma haemofelis* (Mhf) と16S rRNA 遺伝子配列が99%という高い類似性を示し, CMhpは猫 ‘*Candidatus Mycoplasma haemominutum*’ と遺伝的には近縁である。また, 犬ヘモプラズマの伝搬と媒介は, 犬マダニによることが実験的に証明された。本邦における犬ヘモプラズマ症の原因であるMhcおよびCMhp感染の分布および感染形態, 病原性については, まだ不明な点が多い。そこで今回, 主に *Babesia gibsoni* (*B.gibsoni*) 感染犬におけるヘモプラズマの検出を試み, 現在までに得られた知見を報告する。ヘモプラズマの感染診断法として塗抹染色標本の鏡検では, 感染率が低いと検出は困難である。海外の犬ヘモプラズマ感染の診断はリアルタイム定量PCR (Wengi, 2008; Barker, 2009) により行われる場合が多いが, 本法の実施には高価な機器と試薬を

要するため現実的ではない。我々は通常PCRによりMhcおよびCMhpの16S rRNA 遺伝子の検出法を考案し, 現在までにマルピー・ライフテック(株)から提供された犬症例DNAおよび沖縄県, 徳島県等の *B.gibsoni* 流行地の動物病院由来の合計約130症例の犬血液DNAからMhcおよびCMhpの検出を試みた。その結果, 現在までにCMhpと *B.gibsoni* が共に感染陽性が2例, Mhcと *B.gibsoni* が共に感染陽性が1例, CMhpは感染陽性で *B.gibsoni* は感染陰性が1例, CMhp, Mhc, *B.gibsoni* の3種全て感染陽性が1例見つけた。犬への *B.gibsoni* 感染は犬マダニが媒介するため, 犬ヘモプラズマを保有する犬マダニが *B.gibsoni* と共にMhcおよびCMhpも犬に感染させることは容易に考えられる。このようなことから *B.gibsoni* 感染の流行地では, 犬ヘモプラズマ感染も分布していると考えられる。個々の症状, 血液および生化学データ等はまだ明らかでないので, 重複感染の病態に及ぼす影響については明らかでない。今後も症例数を増やし犬ヘモプラズマ感染の検出を行うと共に, その病態への影響および病原性を明らかにしたい。